

研究の現場から

オンライン道德科学研究フォーラム

現代社会問題に対する
モラロジーのアプローチ

道德科学研究所 客員教授
共同研究代表者

中山 理

私たちの問題意識は、現代社会がどのような問題を抱えているか、それに対しモラロジーではどのように考え、どのような新しいコンセプトを提示できるか、にあります。この度、その研究成果を、十二月三日（土）、オンライン道德科学研究フォーラム「現代社会問題に対するモラロジーのアプローチ」において発表することになりました。

その前提として、まず現代の私たちがどのような社会問題を抱え、それに対してどのように対処しようとしているかを押さえておく必要があります。そこで二〇二一年に実施された「社会問題・ソーシャルグッドに関する意識・行動調査」をもとに、社会の矛盾や欠陥から生じる諸問題は何かを確認しました。またこの調査には、ESG（環境・社会・ガバナンス）、SDGs（持続可能な開発目標）など、それらの問題に向けた新しい取り組みやコンセプトも紹介されて

います。それらを参考に四つの社会問題を取り上げることになりました。

犬飼孝夫道德科学研究所所長・教授は、「孤独」を社会で取り組むべき課題と捉え、孤独に関する実態調査と国勢調査のデータに基づき、孤独をめぐる状況を分析し、モラロジーの観点から「ソロ社会」を生きる課題について考察します。

横田理宇同研究員は、廣池千九郎博士が提唱した道経一体論が企業の持続可能性を考えるうえで鍵となる概念であることを押さえ、それが現代経営学においてどのような理解できるのかを検討します。

宗像俊輔同研究員は、SDGsの正しい理解のため、それが成立した歴史的経緯を整理したうえで、各国のSDGsに対する取り組みと日本の現状を踏まえ、成果と課題について検討します。

中山理同客員教授は構造主義的アプローチを用いて「いじめ」問題の社会問題化を

分析するとともにその実態と対処法を探ります。

言うまでもなくモラロジーは、いろいろな社会の矛盾や欠陥から生じる諸問題を「自分のこと」として捉え、どうしたら自己の運命を改善し、その輪を広げて世界の人々の安心、平和、幸福を実現できるかを科学的に追究した学問です。しかし、モラロジーの創立者・廣池千九郎の大著、『道德科学の論文』の初版が上梓されたのは一九二八年で、あれから九四年の歳月が経過しています。歴史にifはありませんが、もし廣池博士が現代の諸問題と直面したら、どのようなコンセプトを打ち出されるのか、それを共に考えてみたいと思います。

日時：十二月三日（土）午後二時～五時

開催形態：オンライン形式（オンデマンド配信あり）

参加費：個人二、〇〇〇円

団体一万円（五名以上）

申込方法：下記のQRコード、もしくは

「維持員専用ホームページ」からお申し込みください。



【お問い合わせ先】道德科学研究所 事務局

電話 04-7173-3252

Eメール rc@morology.jp